

第 47 期 (2025 年度) 海外情報連絡会 第 3 回講演会 開催報告

開催日時：2025 年 11 月 25 日 17:00~18:30

開催場所：Zoom によるオンライン開催

参加人数：約 50 名

演題：「国際原子力機関 (IAEA) の最近の動向と日本の取り組み」

講師：須田一則氏 (日本原子力研究開発機構 国際部 ウィーン事務所 所長)

【講演概要】

オーストリアに事務所を構える日本原子力研究開発機構 ウィーン事務所では、欧州における原子力動向情報収集や政府機関及び国際機関との連絡調整業務を行っている。IAEA は、原子力の平和的利用を促進し、軍事利用への転用を防止することに重点を置いてきたが、近年では、人類社会の福祉への貢献として、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) にも取り組んでいる。これら、IAEA における動向に加えて、日本 (国、企業、大学、研究機関) の協力、EU におけるエネルギー政策やロシアの原子力動向についてご講演頂いた。

【質疑応答】

Q1) IAEA は原子力防災にどのくらい検討が行われているか。地震、火山、津波・洪水等の検討はあるか

回答：3.11 を契機に津波等自然災害対策に日本から専門家派遣を行っている。東京電力や NRA から派遣されている。また、地震対策としてこれから SMR 向けの免振の検討などが行われている。来年は、日本で専門家会合の開催予定である。

Q2) IAEA のグロッシェ事務局長が退任され、国連の事務総長に立候補されるのか？グロッシェ事務局長が事務総長に選ばれれば、IAEA 事務局長を誰にするのかで駆け引き等が発生するのか？

回答：その通り。

Q3) IAEA において日本人職員が少ないとのご認識か？

回答：IAEA 職員について昔は在任期間が設けられていなかったが、現在では、最大でも 7 年となっている。そのため、継続的に送り出して行くことが、重要と考える。

Q4) (IAEA 職員の応募について)日本人は、1 回落ちたら、次の人へターンされ諦めるというイメージ、試験にトライするだけでも価値はある。外国人はそうではないのか？

回答：日本は所属機関に勤めながら国際機関を受験する。一方、外国人は退路を断って受験するので危機意識が違う。国際機関の受験にあたって 2 点留意事項がある。1 点目は、

国際機関での業務経験は、その後の仕事でも有益である（人脈、意思決定の速さ、マネジメント力）。2点目は、外国の応募者は日本に比べて職位が高い印象（例:日本 課長：外国：部長）。どうしても日本人に見劣り感が出てしまう。実績や貢献度のアピールが必要になる。

Q5) NA(原子力科学・応用)の分野に貢献が多く出てくればより日本の見える幅が広がるというのは同感です。日本の特徴や強みがある分野はどのようなものがあるのでしょうか？例えばアスタチンの利用とかでしょうか？

回答：がん対策として JAEA は前立腺がんに向けにアクチニウムの研究を行っている。アスタチンについては内閣府が主導して研究を行っている。課題としては、製薬会社との連携である。試験・研究用だけでなく、その先を見据えて、貯めることの出来ない物質の製造・販売が出来れば輸入に頼る必要がなくなり、強みとなる。研究炉だけでなく、加速器での製造に取り組んでいると聞いている。

Q6) IAEA は、大気中のマイクロプラスチックは、調査しているのか？

回答：詳細までは承知していないが、大気中のマイクロプラスチックは調査していないにとの理解。放射性物質の大気中の濃度は調査をしている。マイクロプラスチックについて IAEA のスコープ外と思われる。

Q7) IAEA は、AI の活用は進んでいるのか？

回答：OA 面での活用は進んでいる。天野前事務局長、グロッシー事務局長と促進されてきている。特に COVID-19 でオンライン会議など DX 化も進んだ。原子力における AI についての会議が 12 月に開催される。

Q8) NHSI(Nuclear Harmonization Standardization Initiative)の最終的なゴールは何か？ IAEA として規制基準作りか？

回答：規制トラック、産業トラックとして検討が進められている。規制における基本的な基準作りを目指している。軽水炉だけでなく、EGALES-300 という鉛冷却炉も検討されている。

Q9) NRC や NRA の参加状況は？

回答：(両組織からも)参加している。NRC は座長など中心的な役割、NRA からも参加されている。

Q10) 事務局長直轄の NHIS は、どの局にも属していませんが、実務者の所属はどのようになっているのでしょうか？また INPRO については NE 局という理解でよいのでしょうか？

回答：NE 局や NS 局で構成されている。INPRO についてはご認識の通り。

Q11) 日本の大学院で博士号を取得した外国人留学生の就職先として、IAEA はどのような感じでしょうか？ 日本人の IAEA 職員の数がそれほど多くないというお話があったかと思いますが。日本で学位をとり、日本に人脈がある留学生が IAEA に就職できると、日本にもメリットがあるのではないかと思います。

回答：その通り。東南アジアの方で日本の大学で学位を取得後、IAEA の課長レベルで勤務され、日本での経験を語ってくれる人もいるので留学生は人脈という意味で重要。IAEA では女性の研究者育成を重要視している。学位取得も推奨されている。この一環で 2 月にグロッシェ事務局長の来日時には、女性の登用や上智大学の講演では人文・社会学系の人でも IAEA にと呼び掛けてアレンジメントを結んだ。話が少し変わるが原子力エンゲージメント会議があって、米国のカリフォルニア州で発電所の運転延長に対し年配の人は慎重意見が多いが、若者について、インフルエンサーなどを通じて理解活動を行った結果、理解を示したと国際会議で聞いた。今の考え方に即した広報公聴活動の重要性を認識した。

Q12) 日本にシンパシーのある人を IAEA に増やすことが重要。新卒者は (IAEA での) 活躍は難しい。なぜなら、研究能力よりも、研究やマネジメントなどの総合力が求められる場であり、社会経験を積む必要がある。

回答：東南アジアに対しての日本の人材育成は機能していると考えます。これからの日本の原子力の国際協力に活用すべき。ベトナムは 2016 年に中断した原子力発電を再開した。人材育成が重要であり、(日本で研修を積んだベトナム人が要職につけば) 人脈構築につながる。IAEA の職員については各国の代表との認識が強いが、きっかけ作りとして日本と接点があることは重要との認識

Q13) IAEA は新型炉レビューを積極的に行っているのか？

回答：IAEA は情報収集を行い、各国に新型炉の情報提供は行っている。レビュー活動は各国から依頼を受ければ実施している。IAEA のお墨付きを得ることは対外的に重要視される。自治体への説明にも効力を発揮する。

Q14) レビューは NE(原子力エネルギー局)が実施しているのか？

回答：その通り。評価ミッションとして導入国に対しての導入プロセスに対して、レビューは行っているが、として新しい炉型を積極的に実施するわけではない。

(講演補足)

グロッシェ事務局長のイニシアティブは各界のトップとの対話を重視。日本でもメーカーとのトップと対話し、NHSI に取り込んだ。昨今の世界銀行における原子力への融資解除もその一例。原子力において資金問題が重要になっている。2050 年原子力 3 倍宣言やウクライナ支援など、グロッシェ事務局長の成果である。

: 以上